２０２２年度 第３回連盟運営委員会を受けての報告

2022 年 11 月 29 日　松下鯉太郎

報告と議題

1. インカレ・学生選抜における団体登録料に関して
2. ファイナル、団体戦、（ミックス）のルール改定の可能性に関して
3. 各大会日程の調整

1. インカレ・学生選抜における団体登録料に関して

現在団体登録料はかかっていないが、大会経費の増加に伴う赤字の解消のため新たに徴収を考えている。学連試合以外では以前からかけているところもあるようである。本部から提示された案では、他の大会などから考えて、1 団体 1 種目 2 万円が提示された。今後、全国大会の団体種目に支部としての参加が可能にすることも議論されており、現在団体を組めない加盟校にも関係がある。これについて、支部総会で支部としての議論し意見をまとめ、本部に報告したい。

意見を集めた結果、『各支部に会費のばらつきがあり、ほとんど（全く）学連会費を集めていない支部で生じた赤字を団体登録料として補填することに疑問がある。生じた赤字を補填するとしても個人のエントリー代を 1000 円上げることや、登録料の金額を下げるなどして、負担を分散するようにしてほしい』ということを支部の意見としたい。

2. ファイナル、団体戦、（ミックス）のルール改定の可能性に関して

ISSF の公式ルールが～2022 年 9 月に改定され、特に団体戦とファイナルに関して大きな変更が加えられたこと、運営委員会での議論を報告する。また、今後新ルールを北海道支部で取り入れるかを議論したい。また新ルールに関しては、ISSF 公式から確認ができる。https://www.issf-sports.org/theissf/rules_and_regulations/rifle_rules.ashx

意見を集めた結果、北海道支部では「紙的との相性やゲーム性を鑑みて大会などは現行ルールで行い、インカレ前などに適宜練習を行う」ということを意見にしたい。

1-1 ファイナルに関して

ファイナルのルール改定に伴い、インカレなどでのファイナルが新ルールで行われる予定となった。以下にファイナルの大まかな流れを記載する、大きな変更がない箇所に関しては省く。

【試射 6 分】

【5 発シリーズ】

250 秒 5 発シリーズを 3 回、計 15 発で 8,7 位を決定する。退出。

250 秒 5 発シリーズを 1 回行い、6,5 位を決定する。退出。

250 秒 5 発シリーズを 1 回行い、4,3 位を決定する。退出。

（最下位に同点がある場合は同点が解消されるまで 50 秒 1 発を撃つ）

【メダルマッチ（単発シリーズ、1,2 位決定）】

50 秒 1 発を撃ち、各ショット後、得点が高い方の選手に 2 ポイント、低い方の選手に 0 ポイン

ト、同点であれば両名に 1 ポイント与えられ。最初に 16 ポイント以上を獲得すると勝利。

1-2 団体戦に関して

団体戦は､現行ルールでは各種目 3 名を選びその本選の記録の合計により順位を決定している。新ルールでは、団体戦が本選とファイナルをもつ別の種目として行われる。このルール変更により、個人得点の 3 人合計による団体戦の記録が今後日本記録公認ではなくなる。インカレ等では現行ルールのまま行うことを予定していて、新しい団体戦に関しては、別競技として、別日程にイベントとして実施することを検討している。

以下に新ルール記載する。

【本選】30 分で 1 人 30 発 チームメンバーが隣に並び撃つ

【本選 2】上位 8 組 20 分 1 人 20 発撃つ。チームの計 60 発で 1~4 位がファイナル進出

【ファイナル 3,4 位決定戦 単発シリーズ】

50 秒 1 発、2 チーム計 6 名が撃ち、チーム 3 名の合計得点が高い方に 2 ポイント、低い方に 0 ポイント、同点で両者に 1 ポイントを与え、16 ポイント以上先取で勝利となる。16 点以上で引き分けの場合は、ポイントに差がつくまで同様に 50 秒 1 発を撃つ。

【ファイナル 1,2 位決定戦 単発シリーズ】 同様

1-3 ミックスに関して

こちらも変更があり、別日程のイベントとしてインカレ等行われる可能性があるため新ルールを記載する。

【本選】30 分で 1 人 30 発、女性が左、男性が右（共通)、6 組がファイナル進出

【ファイナル 5,6 位決定戦 単発シリーズ】

50 秒 1 発、2 チーム計 4 名が撃ち、2 名の合計得点が高い方に 2 ポイント、低い方に 0 ポイント、同点で両者に 1 ポイントを与え、16 ポイント以上先取で勝利となる。16 点以上で引き分けの場合は、ポイントに差がつくまで同様に 50 秒 1 発を撃つ。

【ファイナル 3,4 位決定戦 単発シリーズ】 同様

【ファイナル 1,2 位決定戦 単発シリーズ】 同様

3. 各大会日程 場所に関して

前述のインカレの別日程のイベントは 2023 年 2 月もしくは 3 月に計画されている。分散開催を考えているが、紙標的に関する扱いは未定。

参考

- 日本学生選抜 2023 年 6 月 16 日~18 日能勢ライフル射撃場
- 全国ピストル競技会（学生選抜またはインカレと同時開催、または分散開催）
- 国体 鹿児島 ～10 月 11 日
- 全日本学生スポーツ射撃選手権(2023 年 10 月 12 日~15 日 長瀞射撃場 or 10 月 19～22 日 栃木県射撃場)
- 全日本学生スポーツ射撃団体戦 テストイベント（2023 年 2 月 or3 月、分散開催を計画(リモートでの実施検討)）

12/2 までに出た意見

可能な限り意見を載せた。一部省略・表現を改めた点もある。

議題 1

- 赤字を解消するための対策としているが、具体的にどのような点が赤字となっているのか、明確なデータがない。決めるのはその後ではないか。現状では承認できない。
- インカレの AR のみで考えた場合、全団体で学連に 80 万円の利益が出る。具体的にこの利益幅で赤字が解消できるのだろうか。
- 他の支部では学連会費は 1000 円もせず、赤字が出ている関東支部では学連会費は取っていないとのことだった。そのせいでこちらに払う義務があるとは思えない。よって学連会費を下げたり、共通にしたりした上（全国でのバランスを考えたうえ）でこの団体登録料の話は進めるべきである。
- 大学ごとで部員ごとやハイブリッドなど選べるようにするのはどうか。

議題 2

- そもそも G3 以上の大会をいつも行なっているのに、電子標的でない時点で ISSF のルール通りに行うなど不可能に近いのではないか。だから採用しない方が良い。
- 紙標的の場合 250 秒 5 発というのは射手が撃つ時間が明らかに制限されてしまうため、電子標的と比較して不公平ではないか。だから採用しない方が良い。
- 大会では、現状で行い、インカレの練習用として練習会などで行うのが良いのではないか。
- 紙標的は枚数の関係もあるので枚数の確定しないメダルマッチはどうなのか。枚数を指定した方がいいのではないか。
- メダルマッチって面白いの?エンタメ性が欠けるのではないか。
- ISSF はすぐにルールを変えるので急いで採用する必要はない。
- （以下 1 名の意見）スタンスとしては反対です。以下、理由です。
  - これまでより長引く可能性が大いにある点について
    今回のルール変更により、3 位までが 5 発ずつを 5 シリーズ、1 位、2 位決定戦だけで最低 8 発、最高に関しては(あり得ないけど)青天井、というルールになったと思いますこの変更だと明らかにこれまでより弾数が増えており、現状ですら撤収までが 17 時ギリギリにも関わらず、これ以上伸ばすのは無理があると思います。またそもそも終了時刻が大きく後ろ倒しになる可能性もあるため予定を組むのも難しいと思います。(一応、午前:男子ファイナル、午後:女子ファイナル、のようにするなどの対策はあるかも)ただ一方で、たしかにこれまでの「(50 秒で撃つ→採点→結果)×4 回」より「250 秒で 5 発→採点→結果」の方が時間の短縮が出来るとは思います。しかし 1 位決定戦は最短が「(50 秒で撃つ→採点→結果)×8 回」であるため、それでカバーし切れない長さになると思います。また、これは後述しますが、試合時間のバランスの悪さになるかと思います。
  - 紙標的では無理がある点について
    現状、北海道では紙標的を用いており、ファイナル的は学連員の皆さんが、決められ

た枚数を的組みし、射座・射撃順序まで書いていただいております。しかしこのルールだと、3 位まではこれまで通り組めますが、1 位決定戦は枚数が確定しないため、「事前に用意する」というのが難しいかと思います。一応、「3 位までのものを 8 つ的組みし、1 位決定戦用に 16 枚を 2 組用意する」ということをしておけば可能かもしれませんが、1 位 2 位の射手がどの射座で撃つかは事前に分からないため、やはり無理があると思います。またこの方法を取ったとしても、17 枚以上になった場合は、結局競射と同様になり、学連員の負担も増え、時間も余計にかかると思います。

・ 競技自体の面白さ・楽しさについて今回のルール変更に伴い、「ファイナルで 50 秒に 1 発撃つ」ということが出来る射手が 2 人に限られてしまいました。個人的には「50 秒間で撃ち、それにより順位が変動する」という点こそがファイナルの醍醐味だと思っているのですが、現状の北海道は紙標的のため、回収するごとでしか点数を出せません。そのためこのルールでは、3 位以下の順位の変動は「5 発目、10 発目終了時」「7 位決定時」「5 位決定時」「3 位決定時」となってしまいます。これでは S60 の制限時間を短くして細切れにしたものと変わらないのではないか、というのが個人的な意見です。(回数は少ないですが、参加経験のある射手としての意見ですが)このルールでは 3 位以下の射手の楽しさが大きく損なわれるように感じました。また見ている側としてもこの順位変動に面白みを感じている人は少なくないと思います。しかしこのルールでは、先程も申しましたが 3 位までの順位があっさり決まっていってしまい、1 位 2 位を 8 発かけてじっくり決める、という形のため、時間的にバランスが悪く、見ている側としても退屈になるのではないか、と思います。もちろん、1 位と 2 位がデッドヒートする試合も面白いでしょうし、今回のルール変更にはそのような意図があったのではないか、と思われます。しかし現状の北海道支部では、ワンサイドゲームになるか、出場者が固定されマンネリ化するのではないか、と思われます。

以上の点が、新ルールへの反対理由、および考え得るデメリットです。ただ一方で、やらないことによるデメリットの 1 つとして、インカレ等の大会でこのルールが採用された際に事前練習が出来ない、というものがあると思います。実際今年度、北海道支部からもファイナル射手が出ましたし、来年度は AP 射手も多数出ますのでファイナル参加者が増える可能性があるかと思われます。その観点から何かしら機会があっても良いとは思いますが、それはインカレ直前の練習会で(それも ARMW、AP すべて混合で)行うのでも充分ではないか、というのが私の意見です。